

貨幣、インフレーション、および資本蓄積に関する理論研究：

Diamond 型の世代重複モデルにおける分析

**Theoretical Studies on Money, Inflation, and Capital Accumulation:
Analysis in Diamond's Overlapping Generations Models**

2006年 2月

久米 良光

貨幣、インフレーション、および資本蓄積に関する理論研究：

Diamond 型の世代重複モデルにおける分析

**Theoretical Studies on Money, Inflation, and Capital Accumulation:
Analysis in Diamond's Overlapping Generations Models**

2006年 2月

早稲田大学大学院経済学研究科
理論経済学・経済史専攻 理論経済学研究

久米 良光

貨幣、インフレーション、および資本蓄積に関する理論研究：

Diamond 型の世代重複モデルにおける分析

目次

第 1 章 序論

- 1.1. はじめに
- 1.2. Mundell-Tobin 効果に関する実証研究について
- 1.3. 貨幣を含む理論モデルについて
- 1.4. 本論文の構成および概要

第 2 章 Diamond モデルにおける裁定条件と逆 Mundell-Tobin 効果

- 2.1. はじめに
- 2.2. Diamond 型世代重複モデル(標準型)
 - 2.2.1. モデル
 - 2.2.2. 定常状態
 - 2.2.3. 比較静学(インフレ率の上昇による影響)
 - 2.2.4. 動学
- 2.3. 資本に関する収穫非逓減性の考慮
 - 2.3.1. モデル
 - 2.3.2. 定常状態
 - 2.3.3. 比較静学(インフレ率の上昇による影響)
 - 2.3.4. 動学
- 2.4. 裁定条件が非束縛的となる場合：貨幣の役割の考慮
 - 2.4.1. モデル
 - 2.4.2. 定常状態
 - 2.4.3. 比較静学(インフレ率の上昇による影響)
 - 2.4.4. 動学
 - 2.4.5. 資本に関する収穫非逓減性を考慮した場合
- 2.5. 結論

補論

第3章 インフレーションの内生化 : 財政的側面からの分析

3.1. はじめに

3.2. 標準的 Diamond モデルの場合

3.2.1. モデル

3.2.2. 定常状態

3.2.3. 比較静学(政府支出の拡大による影響)

3.2.4. 動学

3.3. 法定準備要件を考慮した場合

3.3.1. モデル

3.3.2. 定常状態

3.3.3. 比較静学(政府支出の拡大による影響)

3.3.4. 動学

3.4. 結論

補論

第4章 インフレーションの内生化 : 公開市場操作を通じた分析

4.1. はじめに

4.2. モデル環境

4.3. ケース1:国債が収益性資産とみなされる場合

4.3.1. 定常状態

4.3.2. 比較静学(公開市場操作による貨幣政策の効果)

4.3.3. 動学

4.4. ケース2:国債が流動性資産とみなされる場合

4.4.1. 定常状態

4.4.2. 比較静学(公開市場操作による貨幣政策の効果)

4.4.3. 動学

4.5. 結論

補論

第5章 金融の深化の考慮

- 5.1. はじめに
- 5.2. モデル環境
- 5.3. 定常状態
- 5.4. 比較静学(インフレ率の上昇による影響)
 - 5.4.1. インフレ率の変動が株式市場の流動性に影響を与えない場合
 - 5.4.2. インフレ率の変動が株式市場の流動性に影響を与える場合
- 5.5. 動学
 - 5.5.1. 技術2のみ用いられる場合
 - 5.5.2. 技術1と2が無差別となる場合
- 5.6. 結論

補論

第6章 私的貨幣についての考察 : 概論

- 6.1. はじめに
- 6.2. 裁定条件が束縛的となる場合
- 6.3. 裁定条件が非束縛的となる場合
- 6.4. 結論

第7章 私的貨幣についての考察 :

変動的流動性需要のもとでの銀行行動を通じた分析

- 7.1. はじめに
- 7.2. モデル環境
- 7.3. 私的貨幣のみ発行される場合(法定準備要件が課せられていない場合)
- 7.4. 外部貨幣のみ発行される場合
(法定準備要件が課せられ私的貨幣の発行が禁止されている場合)
- 7.5. 外部貨幣と私的貨幣が共存する場合
(法定準備要件が課せられ私的貨幣の発行が認められている場合)
- 7.6. 結論

補論

参考文献